



安曇野日和

連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

2020年はその数字の並びと東京オリンピック、そして世界中に蔓延した新型肺炎によって長く記憶される年だと思います。最初に、中国のある地域で厄介な感染症が発生した、特効薬はなく死者も出ている、と耳にした時に「新型インフルエンザかな」と思いましたが、その後の報道でSARS、MERSと同じコロナウイルスの変種であると知りました。2月上旬までは冷静さを保っていた国内が、クルーズ船の集団感染あたりから徐々に浮き足立っていったように感じます。2009年の新型インフルエンザの流行でも、これほど世の中がガタついた記憶はありません。毎年流行している季節性インフルエンザと比較して致死率はやや高いものの感染力は強くないと分析されています。

ならばペストはどうだったのだろうか？と興味本位で調べてみれば、14世紀に大流行したペストにより世界全人口の1/4が亡くなっていました。現在なら19億人亡くなっている計算ですから人類滅亡の危機と言っても過言ではありません。特にヨーロッパでは猛威を振るい、特定地域の60%が亡くなったとされています。感染が蔓延した地域を塗りつぶしたヨーロッパ地図で、ぽっかりと真っ白な国がありました。「ポーランド」です。かの国はペスト菌を媒介したネズミが発生しにくい地理的条件もありますが、蒸留酒（アルコール）で家具や体を消毒する習慣があったからだそうです。このことから生活環境を清潔にする、食物には火を通す、という教訓がもたらされ人類は今日まで生き延びてきています。

私たちは毎年インフルエンザの流行を想定して感染対策をしているのだから、余計な情報やデマに惑わされずに、まず身を引き締めて自らの健康を保ち、不調を感じたら無理をせず職場に連絡、という基本を徹底していきましょう。

表紙写真

写真タイトル：「蝶ヶ岳から見た常念岳」

撮影者：樋口 孝

蝶ヶ岳山頂から常念岳を見ると、前常念から山頂までが長く
三郷の下界から見える常念岳とは一味違います。

焼きいもと茶巾しぼり

令和1年11月7日（木）に22病棟で毎年恒例の焼きいも会を開催しました。午前中は女性患者さん数名と共に、焼きいもの準備を行いました。①さつまいもを洗う ②濡らした新聞紙に包む ③アルミホイルに包む 毎年のことなので、患者さんも手慣れた様子で作業に取り組んでいました。また、午前中いもを焼いている時間に、病棟にてカラオケ大会を行い、大いに盛り上がりました。



外での焚き火は看護長が中心となり火を起し、いもを焼いてくれました。午後は屋外の病院駐車場まで散歩に行き、「外の空気が吸えて嬉しい」等の感想が聞かれました。3時のおやつに皆で焼きいもと茶巾しぼりをおいしく頂きました。



クリスマスコンサート

令和1年12月21日（土）に患者サービス委員会の企画による、松本市民吹奏楽団を招いてのクリスマスコンサートが行われました。

まずは院長のオープニングアクトから。



会場の空気は暖まり、いよいよ楽団の方々による美しい演奏に皆聞き入っていました。

クリスマスソングだけではない楽しめる楽曲構成、快活なMC、普段接する機会のない楽器の紹介と迫力のソロ演奏、演歌をオーケストラで聴く体験は楽しく、会場からは大きな拍手や手拍子が鳴り響いていました。

「素晴らしい演奏だった」「また来年も来てほしい」と患者さんより大好評のうちに今年もコンサートは幕を閉じました。



1月病棟レクリエーション



令和2年1月に、各病棟において恒例の書初めと、ビンゴ大会やおやつ作りをしました。

11病棟は、午前中に女性患者さん数名と共に抹茶ババロアを作りました。午後は書初めとババロアを食べました。書初めは真剣な表情で取り組んでいる姿が印象的でした。

22病棟は書初めとおしるこ作りをしました。午前中は患者さんと一緒におしるこを作り、午後は書初めを行いました。どの患者さんも今年の抱負を真剣に書いていました。

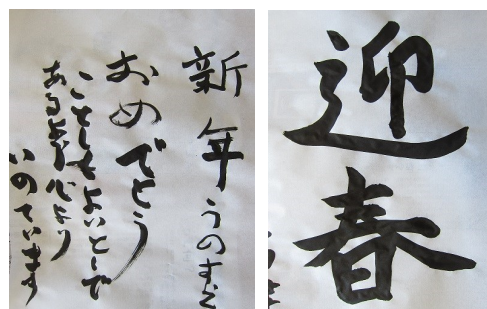


23病棟ではビンゴ大会を行いました。初めてビンゴをする患者さんも多く、緊張しながらも楽しんで参加していました。

景品は手作りのゼリー・ショコラブリュレ・ゼリーカップチーノから一つ



選んでいただきました。コーヒーゼリーが一番人気でした。



2月病棟レクリエーション

2月は毎年各病棟で節分を行います。

22病棟では午前中にクレープのトッピングとプリン作りをしました。午後は節分にちなんで段ボールで作った鬼の口にお手玉を投げるゲームを行い、皆楽しんでいました。その後、お茶の時間に患者さんの食事形態に合わせて、手作りのクレープかプリンのどちらかを食べました。

23病棟の患者さんにはババロアのトッピングをして頂きました。鬼の顔になるように、絞り袋に入れた



あんこで目と口、つぶあん で髪の毛を、角はゼリーを三角に切ったもので顔を作りました。患者さんたちは集中して取り組んでいました。

13病棟はカラオケ機器を使って、イントロクイズや歌を歌ってカロリー消費対決を行いました。また、患者さんからの要望で看護長に「越冬つばめ」を歌って頂きました。採点も高得点で患者さんも喜び、大盛り上がりでした。

午後はお楽しみのおやつバイキングで楽しいレクリエーションとなりました。



保育実習生受け入れ



令和2年2月20日（木）、21日（金）に院内保育所に保育実習生の受け入れがありました。

お天気が良かったのでグラウンドにお散歩に行き子どもたちと石を並べたり植物を見つけたりと楽しく遊んでくれました。この2日間の実習で子ども達ともすっかり仲良くなりました。



長野県精神科病院協会研修会

令和2年2月22日（土）に第54回目の研修会にて、当院からは食事療養部が「嚥下機能の低下した患者にも満足してもらえる食事」と題し、「キザミソフト食」の取り組みを発表しました。キザミ食とソフト食を組み合わせ、メニューのバラエティに富みつつ、咀嚼嚥下に優しく見た目も楽しめる食事を提供しています。食事形態変更への受け入れやすさが向上し、食事アンケートでも「おいしい」と答える方が増えたことを報告しています。



第7回 地域でともに生きようフェスティバル



令和1年12月14日（土）に「第7回 地域で共に生きようフェスティバル」が開催されました。このフェスティバルは精神障がい者への理解を深め、障害の有無にかかわらず、誰もが暮らしやすい共生社会の実現を目指すことをテーマにしたイベントで、1～2年の間隔で開催されています。今回は桑村院長がパネリストとして出席し、当院の職員も企画運営に協力しました。

病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団
ミサトピア小倉病院

城西医療財団HP www.shironishi.or.jp

編集後記

雪の少ない冬も終わりを迎え、季節の移り変わりに忙しさを感じます。新型コロナウイルスの伝播により普段の生活に少なからず変化を求められていることもあり、意識するしないに関わらずたくさんのストレスを心や体に受けていそうです。普段と変わらずよく食べ、そこそこ運動をし、しっかり眠り、体の防御機構を維持し、この局面を切り抜きたいものです。